

北海道環境マネジメントシステムスタンダード

産業廃棄物処理業者用システム

環境活動レポート 2020

令和2年度

<対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日>

— 発行日：2021年 月 日 —

道央衛生株式会社

代表取締役 佐々木 雅之

〒067-0051 北海道江別市工業町6番地3

TEL 011-383-9080 FAX 011-385-2838

URL <http://douou-eisei.jp/>

Email info@douou-eisei.jp

目次

1. 組織の概要.....	3
2. 対象範囲（認証・登録範囲）	9
3. 環境に関する基本方針	10
4. 環境目標と環境目標計画.....	11
5. 環境目標計画に基づき実施した取り組み内容.....	12
6. 環境目標及び環境目標計画の実績.....	13
7. 環境目標計画の取組結果とその評価、次年度の環境目標及び環境目標計画	14
8. 環境関連法規等の遵守状況も確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無	16
9. 最高責任者による評価	17

1. 組織の概要

事業者名 : 道央衛生株式会社
 所在地 : 北海道江別市工業町 6 番地 3
 代表者氏名 : 代表取締役 佐々木 雅之
 事業の概要 : 一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬、浄化槽の保守点検・清掃、高圧洗浄事業、上下水道事業
 設立年月日 : 1980 年（昭和 55 年）2 月 21 日
 事業年度 : 4 月 1 日～3 月 31 日
 資本金 : 10,000 千円

売上高	2018 年度	2019 年度	2020 年度
総売上高	386,213 千円	385,185 千円	350,273 千円
産業廃棄物収集運搬	74,485 千円	78,108 千円	73,025 千円
一般廃棄物収集運搬	97,063 千円	99,710 千円	101,007 千円
浄化槽保守点検・清掃	29,314 千円	29,143 千円	32,914 千円
高圧洗浄	86,887 千円	89,622 千円	73,561 千円
上下水道事業	98,464 千円	88,602 千円	69,766 千円

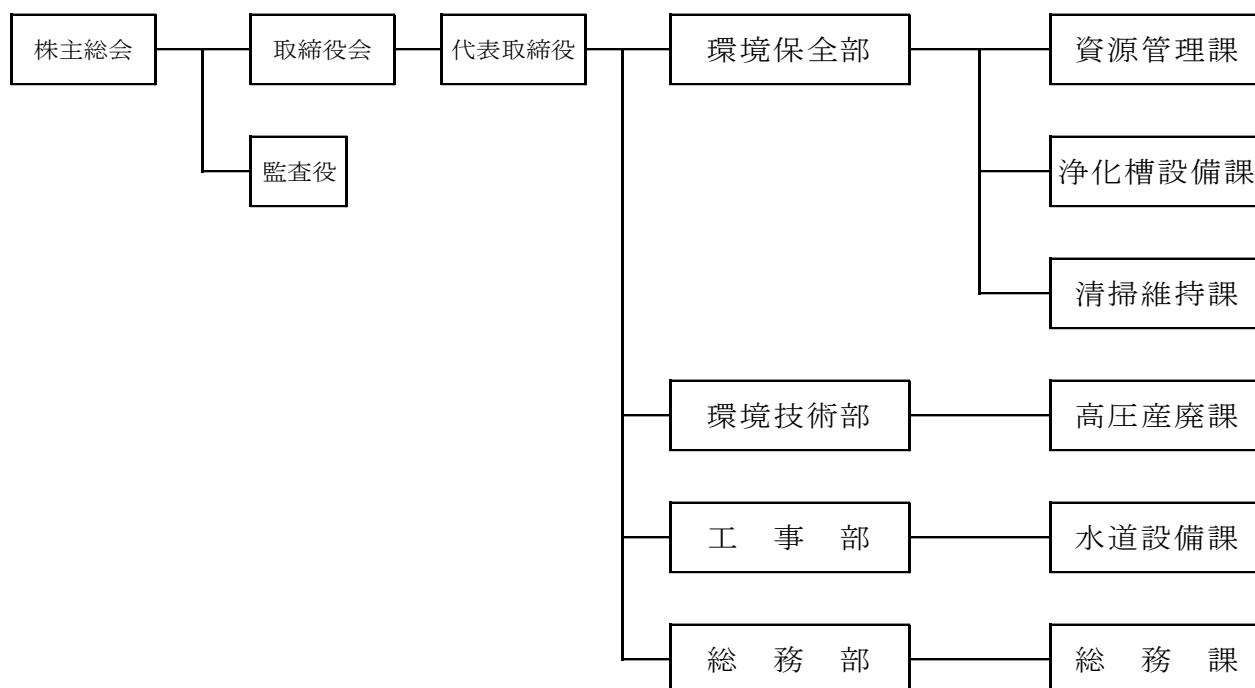
受託した産業廃棄物 収集運搬量	2018 年度	2019 年度	2020 年度
	2,137.1 t	2,181.5 t	1,978.1t

従業員数	2018 年度	2019 年度	2020 年度
	46 名	51 名	49 名
	役員 8 名、従業員 31 名 ライフサービス道央 7 名 内、産業廃棄物収集運搬 に関わる人員は、兼任を 含み 21 名	役員 8 名、従業員 36 名 ライフサービス道央 7 名 内、産業廃棄物収集運搬 に関わる人員は、兼任を 含み 23 名	役員 8 名、従業員 34 名 ライフサービス道央 7 名 内、産業廃棄物収集運搬 に関わる人員は、兼任を 含み 22 名

敷地面積	2018 年度	2019 年度	2020 年度
	7,275.0 m ²	7,275.0 m ²	7,275.0 m ²

延床面積	2018 年度	2019 年度	2020 年度
	事務所他 1,133.8 m ²	事務所他 1,133.8 m ²	事務所他 1,133.8 m ²

組織図



(1) エコアクション 21 の相互認証：産業廃棄物の収集運搬業

① 許可の内容

許可証	事業の範囲
産業廃棄物収集運搬業許可番号 : 第 00110014656 号 取得年月日 : 昭和 57 年 6 月 3 日 許可年月日 : 令和元年 6 月 14 日 有効期限 : 令和 8 年 6 月 2 日 許可地域 : 北海道	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、動物のふん尿。以上、石綿含有産業廃棄物であるものを含む。また、水銀使用製品産業廃棄物であるものを含み、燃え殻、汚泥、廃酸、廃アルカリ及び鋳さいについては、水銀含有ばいじん等であることを含む。積替保管あり。
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可番号 : 第 00150014656 号 取得年月日 : 平成 15 年 9 月 25 日 許可年月日 : 平成 30 年 9 月 25 日 有効期限 : 平成 35 年 9 月 24 日 許可地域 : 北海道	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）、廃酸（pH2.0 以下のもの。廃バッテリーを含む。）、廃アルカリ（pH12.5 以上のもの。）。積替保管なし。

② 施設等の概要

・産業廃棄物運搬車輛の種類と台数

車種	最大積載量	排気量	燃料	産廃使用比率	産廃以外の用途
汚泥吸引車	5,210kg	17.23 ℓ	軽油	100%	
汚泥吸引車	8,640kg	12.91 ℓ	軽油	100%	
汚泥吸引車	8,040kg	8.86 ℓ	軽油	100%	
糞尿車	3,100kg	6.01 ℓ	軽油	0%	し尿収集
糞尿車	3,400kg	6.40 ℓ	軽油	0%	浄化槽汚泥
タンク車	3,400kg	7.96 ℓ	軽油	0%	給水用
ダンプ	7,100kg	6.40 ℓ	軽油	100%	
ダンプ	3,850kg	4.72 ℓ	軽油	100%	
小型クレーン車	2,950kg	6.63 ℓ	軽油	90%	一般廃棄物
小型クレーン車	3,000kg	4.00 ℓ	軽油	30%	融雪剤散布
小型クレーン車	3,500kg	5.30 ℓ	軽油	90%	一般廃棄物
塵芥車	2,400kg	6.40 ℓ	軽油	10%	一般廃棄物
塵芥車	2,050kg	5.12 ℓ	軽油	10%	一般廃棄物
路面清掃車	3,000kg	6.92 ℓ	軽油	100%	
トラック	1,000kg	1.79 ℓ	ガソリン	10%	一般廃棄物
トラック	3,000kg	4.77 ℓ	軽油	80%	一般廃棄物
ワゴン車	2,000kg	4.00 ℓ	軽油	10%	浄化槽設置
ワゴン車	1,000kg	2.77 ℓ	軽油	20%	作業連絡車

・積替保管施設の面積及び保管上限量

設置場所：北海道江別市工業町 6 番 17

施設の種類	面積	種類	保管上限	高さ
保管場所 1	52.56 m ²	がれき類	29.346 m ³	1.675m
保管場所 2	51.84 m ²	木くず	31.104 m ³	1.8m
保管場所 3	51.84 m ²	廃プラスチック	31.104 m ³	1.8m
保管場所 4	7.03 m ²	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、紙くず。(廃石膏ボード)	9.842 m ³	
保管場所 5	27.00 m ²	金属くず	19.684 m ³	

③ 処理実績（受託した産業廃棄物の収集運搬量）

2020年度産業廃棄物収集運搬量（令和2年4月から令和3年3月）													単位：t
廃棄物種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
燃え殻		0.40				2.57	2.65	0.31					5.93
汚泥	239.39	98.69	119.90	104.86	100.13	66.77	91.62	89.76	70.68	41.74	44.24	171.90	1239.68
廃油	0.93	0.50	1.53	1.08	2.44	0.57	1.64	1.34	0.74	0.07	0.14	0.11	11.09
廃酸				0.09									0.09
廃アルカリ				0.06									0.06
廃プラスチック	22.54	38.50	34.66	26.86	27.66	40.02	24.42	29.63	33.84	10.86	15.25	17.41	321.65
木くず	5.16	9.20	9.23	5.64	8.88	11.69	10.25	1.75	6.24	2.21	2.12	0.22	72.59
動植物性残渣	5.77	4.48	5.93	5.89	6.48	5.42	5.02	5.86	4.83	4.14	4.50	5.77	64.09
金属くず	7.68	4.43	7.58	6.37	7.93	11.98	11.74	7.75	12.51	6.87	8.44	7.75	101.03
ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず	0.21	0.55	0.50	0.63	0.08	0.20	1.68	0.37	0.90	0.35	0.19	1.90	7.56
がれき類	7.82	4.72	7.01	11.38		13.16	5.49	7.45	6.15				63.18
水銀使用製品産廃	0.04	0.03	0.07	0.21	0.03	0.06	0.04	0.06	0.06	0.04	0.04	0.05	0.73
廃電気機械器具	0.07			0.18	2.19	0.20	0.22	0.04	0.65			0.72	4.27
電池	0.08	0.04	0.05	0.10	0.03	0.01	0.06	0.04	0.05	0.04	0.02	0.09	0.61
建設汚泥								0.10			5.53	38.47	44.10
混合（安定型のみ）							2.52						2.52
混合（管理型含む）	0.21		0.23		0.17		0.23		0.19				1.03
特管廃棄物種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
引火性廃油	4.10	1.61	4.00	3.99		4.05	3.96	4.71	3.48	3.52	1.65	2.92	37.99
合計	294.00	163.15	190.69	167.34	156.02	156.70	161.54	149.17	140.32	69.84	82.12	247.31	1,978.20

2019年度受託した産業廃棄物収集運搬量（平成31年4月～令和2年3月）													（単位：t）
廃棄物種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
燃え殻		0.34				0.30							0.64
汚泥	196.41	195.53	99.96	119.72	97.43	136.84	112.98	144.58	112.35	62.38	40.91	139.17	1458.26
廃油	0.04	1.06	1.21	0.61	0.33	0.42	0.22	0.48	2.58	2.47	3.28	1.95	14.65
廃酸										0.09	0.08	0.04	0.21
廃アルカリ										0.16			0.16
廃プラスチック	22.10	28.75	40.20	32.05	21.08	26.75	30.44	30.62	25.17	18.04	17.51	21.71	314.42
木くず	4.83	9.24	8.81	8.97	3.81	5.95	8.08	10.00	3.52	0.50	0.64	1.12	65.47
動植物性残渣	3.99	4.87	4.34	5.88	5.79	7.46	6.03	7.13	5.99	4.54	4.81	13.76	74.59
金属くず	8.06	10.61	12.29	8.95	4.82	9.80	8.24	5.81	14.76	8.18	1.80	3.24	96.56
ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず	0.93	0.09	0.10	0.06	0.62	0.45	0.67	1.07	0.49	0.70	0.03	0.45	5.66
がれき類	5.45	7.47	2.30	9.81	10.59	4.13	6.07	2.87	10.67				59.36
コンクリートがら				5.01				0.08					5.09
アスコンがら				66.59				7.88	5.80				80.27
水銀使用製品産廃	0.05	0.04	0.05	0.05	0.02	0.05	0.05	0.06	0.07	0.09	0.06	0.04	0.63
廃電気機械器具	0.70						0.20			0.12		1.78	2.80
電池	0.02	0.03	0.04	0.06	0.01	0.03	0.02	0.07	0.03	0.03	0.06	0.04	0.44
混合（管理型含む）	0.73	0.54	0.47		0.58			0.00					2.32
合計	243.31	258.57	169.77	257.76	145.08	192.18	173.00	210.65	181.43	97.30	69.18	183.30	2,181.53

・2018年度産業廃棄物収集運搬量 (平成30年4月から平成31年3月)													(単位：t)	
廃棄物種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
燃え殻	0	0	0.3	0	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0.65	
汚泥	226.1	196.0	122.6	100.9	96.6	107.2	168.0	139.4	93.0	61.9	57.5	105.7	1474.83	
廃油	4.5	0.9	2.2	0.3	0.8	0.2	0.3	0.3	0.8	0	0	0.5	10.72	
廃酸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.10	
廃アルカリ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	
廃プラスチック	27.5	32.2	28.5	24.0	19.8	18.4	40.8	22.1	29.6	19.2	17.4	22.5	302.00	
紙くず	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	
木くず	6.6	9.9	8.0	10.2	6.8	8.8	17.6	12.0	19.7	1.3	2.3	1.7	104.93	
繊維くず	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	
動植物性残渣	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	17.8	17.87	
ゴムくず	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	
金属くず	12.0	18.1	8.7	8.1	12.7	3.1	11.9	11.7	12.4	8.6	3.6	3.7	114.71	
ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず	2.7	2.2	0.4	0.8	0.2	4.0	1.6	0.5	0.1	0.4	0.1	0.5	13.56	
鋳さい	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	
がれき類	0	0	4.4	3.8	0	7.1	10.9	4.6	4.1	0	4.7	2.9	42.56	
コンクリートがら	0	0	0	0	0	0	3.0	0	0	0	0	0	2.95	
アスコンがら	0	0	11.3	0	0	0	34.5	0	0	0	0	0	45.83	
動物のふん尿	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	
水銀使用製品産廃	0.11	0.07	0.05	0.06	0.21	0.02	0.09	0.12	0.06	0.01	0.03	0.08	0.91	
廃電気機械器具	0.5	0	0	0	0.1	0	0.3	0	0.1	0	0.2	0	1.16	
電池	0.07	0.02	0.04	0.05	0.05	0.01	0.04	0.04	0.01	0.03	0.01	0.07	0.45	
混合(管理型含む)	0.2	0	0.3	0.9	0	0	1.8	0.3	0	0	0	0.3	3.91	
合計	280.24	259.37	186.89	149.20	137.28	149.09	290.72	191.44	159.78	91.43	86.07	155.64	2,137.14	

尚、弊社の産業廃棄物の各年度の排出量は次の通りです。

項目	2018年度	2019年度	2020年度
汚泥	2.72 t	2.80 t	3.33 t
がれき類	11.54 t	0 t	0 t
コンクリートガラ	0.59 t	0 t	0.43 t
アスコンガラ	4.19 t	0 t	6.00 t
廃プラスチック	0 t	0 t	0.53 t

また、一般廃棄物排出量については次の通りです。

項目	2018年度	2019年度	2020年度
一般廃棄物排出量	600.0 kg	562.5 kg	570.0 kg

④ 受託する産業廃棄物収集運搬量の目標

産業廃棄物収集運搬業は、弊社の主たる事業であり、廃棄物の最終処分量の削減につながるため収集運搬量の目標を次のとおりとする。また、目標達成のため、新規開拓を重点に、既存のお取引様への働き掛けも行っていく。

項目	2021年度	2022年度	2023年度
産業廃棄物収集運搬量	2,180 t	2,225 t	2,250 t

(2) その他の車輛一覧

車種	最大積載量	排気量	燃料		用途
塵芥車	4,600kg	6.40 l	軽油		一般廃棄物
塵芥車	4,600kg	5.12 l	軽油		一般廃棄物
塵芥車	4,750kg	6.40 l	軽油		一般廃棄物
塵芥車	4,950kg	6.40 l	軽油		一般廃棄物
清掃車	3,700kg	6.40 l	軽油		高压洗浄
道路作業車	6,200kg	17.99 l	軽油		融雪剤散布車
散水車	6,300kg	7.54 l	軽油		散水車
検査測定車	—	2.98 l	軽油		カメラ検査車
トラクター	105馬力	3.769 l	軽油		堆肥散布
ショベル・ローダ	0.8 m ³	3.31 l	軽油		堆肥積込他
ワゴン車	1,000kg	2.48 l	軽油		小型高压洗浄
ワゴン車	1,250kg	2.49 l	軽油		小型高压洗浄
ワゴン車	950kg	1.79 l	ガソリン		水道設備
ワゴン車	950kg	1.79 l	ガソリン		水道設備
ワゴン車	—	2.49 l	ガソリン		営業車
セダン	—	1.79 l	ガソリン		営業車
バン	400kg	1.76 l	ガソリン		営業車
バン	400kg	1.49 l	ガソリン		浄化槽点検
軽ワゴン車	350kg	0.65 l	ガソリン		浄化槽点検
軽ワゴン車	350kg	0.65 l	ガソリン		一般廃棄物
軽ワゴン車	350kg	0.65 l	ガソリン		水道設備

2. 対象範囲（認証・登録範囲）

登録組織：道央衛生株式会社

・HES:産業廃棄物処理業者システム規格認証登録内容

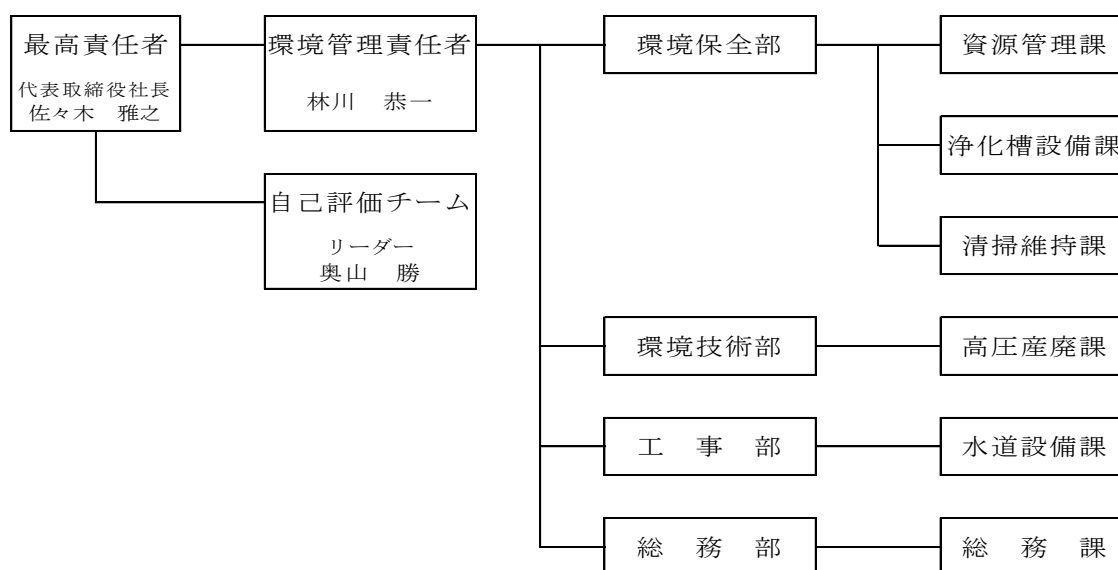
登録範囲：登録組織全域における一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬、浄化槽の保守点検・清掃業務、高圧洗浄業務、水道事業業務

登録番号：HESW：0002

登録日：2008年9月25日

有効期限：2023年9月24日

・組織体制



※有限会社ライフサービス道央は当社の子会社であり、主に定年退職者の再雇用を行っており、熟練者の離職を防ぐ意味も含め、各課に配属されている。

・エコアクション 21 相互認証の内容

認証・登録の対象事業活動：産業廃棄物の収集運搬業

相互認証日：2008年9月25日

有効期限：2021年9月24日

○環境管理責任者：林川 恭一 (連絡先：TEL 011-383-9080 FAX 011-385-2838)

E-mail：hayashikawa@douou-eisei.jp

○HES担当者：霜沢 福男 (連絡先：同上)

E-mail：shimozawa@douou-eisei.jp

廣瀬 信一 (連絡先：同上)

E-mail：s.hirose@douou-eisei.jp

3. 環境に関する基本方針

環境に関する基本方針

<基本理念>

道央衛生株式会社は、事業運営と地球環境の保全を両立し、住み良い北海道の地域社会を実現するために全組織を挙げて環境改善活動に取り組めます。

<方 針>

道央衛生株式会社は、一般廃棄物及び産業廃棄物の収集運搬業務、浄化槽の保守点検・清掃業務、高圧洗浄業務、水道事業業務及びそれらに関するサービスの提供により発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。

1. 当社の活動及びサービスが関わる環境への影響を常に認識し、全事業部門において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。
2. 環境に関連する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組めます。
 - (1) 車輛燃料使用量の削減
 - (2) 電力使用量の削減
 - (3) 産業廃棄物収集運搬業として処分される廃棄物のリサイクル率の向上を排出事業者様と共に取り組むうえで、収集運搬量の向上を目指す。
 - (4) 化学物質の使用量の管理を行う
 - (5) 節水対策
 - (6) グリーン購入の推進
4. この環境に関する基本方針は、全従業員が理解し、行動できるよう周知するとともに、社外にも公表します。
5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。

この環境に関する基本方針を達成するために、環境目的・目標を設定し、当社の全従業員をあげて環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。

2008年6月16日制定

2015年9月9日改訂

道央衛生株式会社

代表取締役 佐々木 雅之

4. 環境目標と環境目標計画

○2021年度までの環境目標

環境改善活動	2019年度	2020年度	2021年度	備考
Co2 排出量 基準年度：2018年度 270,255 kg-co2	268,903 kg-co2	267,552 kg-co2	266,201 kg-co2	CO2 係数は北海道電力 2017年 0.678 使用
電力使用量の削減 基準年度：2018年度 22,528 kWh (試算値)	19,570 kWh (使用量実績)	19,369 kWh 1.0%削減	19,179 kWh 2.0%削減	2019年度の空調設備使用開始実績から削減目標を設定
車輻燃料の削減 基準年度：2018年度 251.4 ℓ/百万円	250.1 ℓ/百万円 0.5%削減	248.8 ℓ/百万円 1.0%削減	247.6 ℓ/百万円 1.5%削減	
水使用量の削減 基準年度：2018年度 13.4 m ³ /百万円	13.3 m ³ /百万円 0.5%削減	13.2 m ³ /百万円 1.0%削減	13.1 m ³ /百万円 1.5%削減	

○中長期環境目標計画

項目	基準値 2018年	単位	2022年	2025年	2028年
Co2 排出量	270,255	kg-co2	260,000	259,000	250,000
電力使用量 (基準値は2019年)	19,570	kWh	19,000	18,500	18,200
車輻燃料使用量	251.4	ℓ/百万円	247.0	240.0	220.0
水使用量	13.4	m ³ /百万円	13.0	12.9	12.7

- ・電力使用量における Co2 係数は、2017年北海道電力 0.678kg-co2 を使用しています。
- ・車輻燃料使用量及び水使用量は原単位の値となっています。

5. 環境目標計画に基づき実施した取り組み内容

環境目標計画	実施した取り組み内容
<p>電力使用量の削減</p> <p>2019 年度比 2.0%削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休憩室、会議室など未使用時は消灯する ・ 事務所の昼休憩時は全消灯とする ・ パソコンは休憩時や外出時の長時間使用しないときは電源を切る ・ 残業などの場合は使用する人の上の照明のみを使用し、それ以外は消灯する ・ 長期間使用しない電気器具の電源はコンセントから抜く ・ 空調設備の使用調整や切り忘れ防止、暖房との共用による効率的使用 ・ 電動工具など使い終わったらすぐにコンセントから抜く ・ 節電意識のさらなる啓発
<p>車両燃料の削減</p> <p>2018 年度比 1.5%削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイドリングストップの徹底 <ul style="list-style-type: none"> 踏切、信号待ち、車内での電話時、訪問先などでのエンジンストップを徹底する 夏場の暖機運転はしない、冬場は 5 分から 10 分とする 作業車両については、作業が終了したら直ちにエンジンを切る 始業点検の際には PTO やスイッチ類の点検時以外はエンジンを切って行う 低いギアで引っ張らない、高いギアで一定速度を心掛ける 目的地に着いたら直ちにエンジンを切る ・ 顧客訪問や回収ルート効率よく回るため、ルート設定を徹底する ・ タイヤの空気圧をチェックする ・ パッカー車の回転板を無駄に回さない ・ 作業中 PTO を使用しないときはエンジンを切る ・ 急加速、急発進、無駄なふかし込をしない(エコドライブの徹底) ・ 空調は必要最小限の使用とし、こまめな温度調整を行う ・ エンジンオイルは 5,000 キロ、エレメントオイルは 10,000 キロで交換 ・ エンジンブレーキを使用する ・ 燃料の削減を意識して運転する ・ 車両の導入の際には低燃費車への移行を検討する
<p>水使用量の削減</p> <p>2018 年度比 1.5%削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業時の適正水量を心掛ける、必要以上に給水しない（特に冬場） ・ 給水した水が余った場合は可能な限り再利用する ・ 洗車の際には、こびりついた汚れや油汚れは、洗剤で落としてから洗車機を使い、洗車時間の短縮に心がける ・ 蛇口の閉め忘れによる水の出っぱなしをなくす ・ トイレ使用時の無駄な水流しをなくす ・ 蛇口や配管の水漏れ点検を行う

○廃棄物の再資源化促進につきましては、お取引先様に、分別収集や契約時の処分方法を提案します。また、社内においては、資源化可能な廃棄物の分別を行います。産業廃棄物の最終処分場への持ち込みについても目安として割合を月ごとに算出します。

○グリーン購入につきましては、各部署の事務用品・消耗品の発注を総務部で取りまとめ、グリーン購入法適合商品やエコマーク付き商品、また、エコ商品ネットなどを参考に優先購入を行います。

○化学物質の管理につきましては、医薬用外劇物の保管、使用があるため、製品の購入量・在庫量・使用量を月ごとに管理します。ただし、洗浄剤の使用量は業務の量により変化し、業務に不可欠なため、また、浄化槽保守管理における消毒薬は、設置しなくてはならない消毒薬であるため削減目標は設定いたしておりません。

6. 環境目標及び環境目標計画の実績

環境目標	基準年	項目	2018年	2019年	2020年	評価
Co2 排出量の推移	270,255 kg-co2	計画値	261,199	268,903	267,552	A
		実績値	266,587	283,343	260,887	
電力使用量の削減 2019年の実績値で実施	22,528 kWh	計画値	19,537	22,528	19,369	A
		実績値	17,933	19,570	19,404	
車輜燃料の削減 2018年度比0.5%削減	251.4 ℓ/百万円	計画値	275.4	250.1	248.8	C
		実績値	251.4	271.3	265.1	
水使用量の削減 2018年度比0.5%削減	13.4 m ³ /百万円	計画値	15.5	13.3	13.1	B
		実績値	13.4	11.7	13.5	

※評価基準 A：達成率100%以上 B：達成率95%～100%未満 C：達成率95%未満

※電力使用量における Co2 係数は、2017年北海道電力 0.678kg-co2 を使用しています。

○廃棄物の再資源化促進につきましては、お取引先様の状況に合わせ、分別収集の提案を行ったり、契約時の処分方法を提案したりしました。また、社内においては、一般廃棄物の資源化可能な廃棄物の仕分けを実施しています（ビン・缶・ペットボトル・金属類・新聞紙・段ボールなど）。産業廃棄物の最終処分場への持ち込みについても目安として割合を月ごとに算出しています。

○グリーン購入につきましては、各部署の事務用品・消耗品の発注を総務部で取りまとめ、グリーン購入法適合商品やエコマーク付き商品、また、エコ商品ネットなどを参考に優先購入を行っています。

○化学物質の管理につきましては、洗浄業務・浄化槽保守点検で使用する薬品類に指定の化学物質が含まれているため、これらの取り扱いや保管については十分配慮して行うとともに、購入量・在庫などから月次の使用量を把握しています。

○廃棄物の再資源化促進の取組とグリーン購入の実績は次の通りです。

項目	2018年度	2019年度	2020年度
再資源化量	81.01 t	76.60 t	74.56 t
リサイクル率	60.5 %	59.7 %	60.3 %
グリーン購入率	69.2 %	54.6 %	49.4 %

○化学物質の使用量の実績は次の通りです。

項目	2018年度	2019年度	2020年度
水酸化カリウム	4.75 kg	12.35 kg	10.45 kg
過酸化水素	3.50 kg	0.7 kg	0.7 kg
オクザリックアシド	6.65 kg	0 kg	3.8 kg
塩化水素	1.76 kg	2.64 kg	0.0 kg
トリクロロイソシアヌル酸	430.88 kg	505.1 kg	500.1 kg
次亜塩素酸ナトリウム	2.40 kg	2.4 kg	4.8 kg

○原単位で管理しております車輛燃料と水の使用量は次の通りです。

項目	2018年度	2019年度	2020年度
軽油使用量	82,704.9 ℓ	86,428.5 ℓ	77,285.6 ℓ
ガソリン使用量	11,884.4 ℓ	14,950.7 ℓ	15,287.8 ℓ
水使用量	1,836 m ³	1,676 m ³	1,610 m ³

7. 環境目標計画の取組結果とその評価、次年度の環境目標及び環境目標計画

○電力使用量の削減につきましては、達成率 99.8%となりあと一步目標をクリアすることができませんでした。試算値から実績値に置き換え、緊張感をもってあたっております。夏の冷房使用時期も冬の暖房についても実施担当者が室内の温度設定を細かく気にしており、おおむね管理できていたと感じます。使用している部屋以外の消灯も徹底されていた。今後は、照明の管理以上に冷暖房の使用についての啓発が必要と思われるが、気温や天候に左右されることが考えられる。

○自動車燃料の削減につきましては、達成率 93.9%となり、今年度も大きく目標には達しませんでした。全体の売上高も昨年度を下回り、軽油使用量についても昨年度のみの業務の使用量も含め 9,142 ℓ 大きく減少しましたが、売上高の減少が原単位の値を押し上げてしまいました。業務が発注されなかったことや顧客の営業自粛並びに発注の延期などが主な原因となっています。二酸化炭素排出量は軽油使用量の減少により削減されましたが、自動車燃料の使用計画値を上回りました。

○業務用水の節水につきましては、達成率 98.1%となり目標をやや下回りました。業務用水の使用量はほぼ昨年並みでしたが、売上が昨年を下回った 9 月以降で数値を下げてしまいました。各業務での必要量の把握はできているものの、冬期間の残水の再利用は難しく、注意が必要です。

○自社排出の産業廃棄物、再資源化量、リサイクル率、化学物質の使用、グリーン購入率について

- ・自社排出の産業廃棄物は、例年行っている敷地内の排水処理分離槽などの清掃を始め、自社施工工事のがれきなどが発生した。
- ・再資源化量は、段ボール 59.3 t、紙類 3.7 t、缶類 2.0 t、ペットボトル 2.7 tなどで今期は 74.6 tの資源化量となった。量的には全種類昨年並みとなったが、今後とも社内では再資源化を徹底していきます。
- ・産業廃棄物のリサイクル率は 60.3%となりました。毎年リサイクル率を下げている路面清掃汚泥の割合が若干下がったことはプラス要因であったが、廃プラスチックの破碎を行う処分料が高くなり、焼却処分が上向きとなっている。引き続き取引先や新規のお客様にはリサイクル処理の提言や分別の協力依頼を徹底して、極力最終処分場への運搬を減少するよう努めていきます。
- ・グリーン購入については、49.4%となり、昨年を 5.2%下回りました。定形の日報や複写式の管理書類の作成が割合を下げています。
- ・薬品の使用につきましては、浄化槽の放流水消毒用に使用するトリクロロイソシアヌル酸の年間使用量 500kg が多く、排水管清掃に使用する水酸化カリウムが 10kg となっており、その他は年間 5kg を下回っています。

活動の評価と今後の課題

○昨年度は、限定的な業務などがあり、二酸化炭素排出量が突出して多くなった年でしたが、今期はコロナ禍での業務への影響は少ないとの見方で進んできましたが、顧客の営業自粛や発注の先送りなど売上への影響も出た年度だった。売上が落ち込み、各環境目標の達成率も低調となった。改めて事業活動の環境への影響は大きいと認識した年だった。

来期については、環境目標を新たに作成する年になるので、コロナ禍の要因を考えながら以降の環境目標を作成していきたいと考えます。

次年度の環境目標及び環境目標計画

項目	基準年度	目標	計画数値
電力使用量の削減	2019 年度	2.0%削減する	19,179 kWh
車輛燃料の削減	2018 年度	1.5%削減する	247.6 ℓ/百万円
水使用量の削減	2018 年度	1.5%削減する	13.1 m ³ /百万円
二酸化炭素排出量の削減	2018 年度	1.5%削減する	266,201 kg-co2

8. 環境関連法規等の遵守状況も確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無

○当社の法的適用を受ける環境関連法規制は次の通りです。

適用される法令	主な要求事項	確認状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物、産業廃棄物収集運搬、廃棄物処理委託契約書、マニフェスト伝票の運用、積替保管場所	遵守確認
家電リサイクル法他各種リサイクル法	家電リサイクル品、パソコン、車輛、建設汚泥、使用済み乾電池などの処分	遵守確認
グリーン購入法	事務用品などの購入に関しては、グリーン購入法適合商品やエコマーク商品を優先的に購入する	遵守確認
水質汚濁防止法	貯油施設からの油類漏出防止	遵守確認
毒物及び劇物取締法	劇物の表示・貯蔵・盗難・流失などの防止、使用者の安全を守る	遵守確認
労働安全衛生法	無事故無災害・健康診断の実施・交通安全	遵守確認
浄化槽法	浄化槽の設置、保守点検、清掃	遵守確認
高圧ガス保安法	溶接機の使用・保管	遵守確認
北海道循環資源利用促進税	最終処分量に掛かる循環資源利用税の処分場への適正納付	遵守確認
北海道地球温暖化防止対策条例	<u>CO2 排出量の把握、自動車燃料の削減対策、グリーン購入、エコドライブの徹底、環境保全活動への参加他</u>	遵守確認
江別市火災予防条例	少量危険物貯蔵方法、漏洩防止、消火器設置	遵守確認

定期的に行っている環境関連法規制等の確認及び順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした(本年度は2021年3月に実施いたしました)。

また、その他の要求事項に記載した官庁の工事、委託業務においても同様に順守されていたことを確認いたしました。

○環境関連法規等遵守状況の違反、訴訟等の有無

・関係当局よりの違反等の指摘及び、訴訟等は過去3年間ありません。

○事故・緊急事態の発生の有無

・当社の事業活動又は自然災害に起因する事故により環境に影響を及ぼす可能性がある状態として特定した「事故・緊急事態」の発生はありませんでした。

9. 最高責任者による評価

<最高責任者の評価>

1. 今年度は初頭より新型コロナウイルスの感染防止対策に追われ、何度も襲ってくる感染の山に社内や現場、営業活動にと多くの制約や気遣いが必要な年でした。お客様の状況により顕著な影響は少ないという見方でしたが、廃棄物収集先の営業自粛や発注の先送り、業務の見直しなどで売上にも影響が出ました。そのため、エネルギー使用量、水の使用量、廃棄物収集量が減少し、二酸化炭素排出量も前年度と比較し大きく減りました。事業活動の環境への影響を改めて自覚したところです。
2. 前期の見直し事項については、この評価記録の冒頭にもあるよう社内においても朝礼なども控えているうえ、少人数でのミーティングなどによる打合せなどに限ったため、ほぼ書面による意思疎通と啓発がほとんどとなり細かな指導はほとんどできませんでした。
3. 定期審査におきましては、観察事項2項目が指摘されておりましたが、エアコン点検シートについては確認しました。また、マニュアルについては、2月に改定の指導を受け、指摘事項も含めて今期終了後改定されるとの事です。

<環境に関する自己評価の結果>

1. 各部署とも不適合事項はありませんでした。社内での HES に関する意識は継続されていると考えます。社内での点検・訓練の場が持てなかったことについても資料の配布などで対応し一定程度の確認は行われた。
2. 自動車燃料の効率的使用について、運転手の普段の心がけや実践していることで効果の上がる取り組みを取りまとめ、社内に還元することは必要と考えます。アンケートなどのやり方で吸い上げてみてはどうか。

<最高責任者の見直し指示>

1. 今期の当社の二酸化炭素排出量の減少については、事業活動の減退が一番の要因となっている。売上の確保と同時に軽油、ガソリンの使用量対策を考え、原単位での目標達成を目指してください。
2. 来期は HES の更新と EA21 のガイドラインが 2017 年度版へと移行されます。マニュアルの改訂を進めていく中で、環境管理チームのより深い理解のもと社内の環境改善活動が、継続発展していくことを望みます。

以上